

## I C T 成長戦略会議第 1 回における新藤総務大臣挨拶

平成 25 年 2 月 22 日(金)

- 本日は I C T 成長戦略会議の第 1 回を開催させて頂く。総務省から選出させて頂いた構成員の皆様方、ご出席頂き誠に感謝。是非、本会議を実りある実践的な集いにしたいと考えているので、よろしくお願いする。
- 安倍政権は、いかにして我々の日本を立て直して元気をつくっていくか、そしてこの混乱に終止符を打ち、経済を再生させるとともに、その先の未来や希望をつくっていくか、という重要な役割を担っていると思っている。既に総務省や各省において様々な分野で進んでいる未来を拓くプロジェクトが存在するが、それらを横串にして連携させることで、さらなる効果が期待されるのではないか。どのようなプロジェクトにも全てコンピュータの処理が伴い、進行管理が必要。その技術基盤を所掌しているのは総務省である。それぞれの役所で閉じて検討するのではなく、お互いにリンクさせれば、さらに革命的・飛躍的な効果が得られるのではないか、というのが I C T 成長戦略会議の狙いである。同様の観点から、日本経済再生本部が総務大臣官邸で設けられ、その下に岡構成員にもご協力頂いている産業競争力会議も設置されている。また、経済財政諮問会議も同様である。
- ポイントは3つ であると考えている。1つ目は、我が国が持っている技術や新しい挑戦を横串にする ことである。2つ目は、その中から 実現可能性が具体的に見えるものは、国策プロジェクトとして集中して協力推進していく ことである。3つ目は、これらを進めていく司令塔機能を強化させる ことである。国家が検討を進める中で、我々の I C T 成長戦略会議による結論が重要な役割を果たし、その推進エンジンとなれるような会議としたいと考えている。
- 具体的には、8つの柱 を中心に検討を進めて頂きたい。1つ目は、I C T による海底鉱物や石油資源等の資源問題対策 である。資源小国と言われた日本が独自の資源を持つことにより、特に海洋分野や農業分野を産業化することによって、新しい国のエンジンをつくれるのではないかと考えている。2つ目は、災害に強い街づくり である。命を守る国土づくりとして、防災のシステムや避難や誘導等の災害支援システム等をつくっていく必要がある。3つ目は、超高齢社会への対応 である。特に過疎地が自立できるような支援ができないかと考えている。4つ目は イノベーションの創出 である。i P S 細胞の研究を中心とした、再生医療の実用化が必要だと思っている。

5つ目は、新たなモノづくりを指向する「コトづくり」という分野、6つ目は サイバーセキュリティの強化 であり、これらは基盤を支えるものとして絶対に必要不可欠である。7つ目は、放送コンテンツの海外展開 である。我が国の産業は世界第2位の市場を持っているが、輸出比率が極めて低い。逆に言えば、そこに成長の可能性がたくさんあるということである。8つ目は、スーパーハイビジョンの実現前倒し である。私も実物を見たが、本当に目を奪われるような素晴らしい映像である。今後、教育分野やコミュニティ分野、医療分野など様々な分野に使われると考えられるので、製造業や雇用の創出を目的として世の中にいち早く普及させる。

○これらを推進させるため、このICT成長戦略会議において具体的・実践的なご議論をお願いしたい。そして、可能であれば 本年半ばを目途に一定の方向性を出し、本会議の議論の成果を26年度の概算要求に提出して予算に反映させ、実現に拍車をかけることを目標にしたい と思っている。

○構成員の方々は大変ご多忙でいらっしゃると思うが、我々も、副大臣、政務官も含め、各省幹部を参加させて、しっかりと取り組んでいくので、是非各分野の代表の皆様方の英知を結集して議論をお願いしたいと考えている。